

# ばいぶうぶ こどもくらぶ

## 支援プログラム 5領域

はじめに

【一般社団法人 誉 ばいぶうぶこどもくらぶの思い】

生きる力である、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力、ひとを思いやる心や感動する心、豊かな人間性とたくましく生きるための健康や体力、変化の激しいこれからの社会を生き抜く力を個々の障がい特性に寄り添い、ノーマライゼーションの理念の下、各々の個性を社会生活で活かすための生きる力、その基礎をしっかりと学ぶために専門的な療育をする考え。

### 1, 健康・生活

【ねらい】

- 1 健康状態の維持・改善
- 2 基本的生活スキルの獲得
- 3 生活のリズムや生活習慣の形成

【支援内容】

#### ① 健康状態の把握

自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。常に健康状態をチェック。意思表示が困難なこどもたちのサインに気付けるようにきめ細やかな観察。

#### ② 健康の増進

睡眠、食事、排泄等の基本的な生活リズムを身に着ける支援。食を営む力の育成と楽しい食事への配慮（感覚等）、支援（咀嚼、嚥下、姿勢保持等）。病気の予防や安全への配慮。

#### ③ リハビリテーションの実施

それぞれのこどもに合った身体的、精神的、社会的訓練を行う。

#### ④ 基本的生活スキルの獲得

身の回りを清潔にして、食事や衣類の着脱等生活に必要な基本的技能を獲得できるように支援する。

#### ⑤ 構造化等により生活環境を整える

生活の中で様々なあそびを通して学習できるよう環境を整える。また、障がいの特性に配慮し、時間や空間を本人にわかりやすく構造化する。

### 2, 運動・感覚

【ねらい】

- 1 姿勢と運動・動作の向上
- 2 姿勢と運動・動作の補助的な手段の活用
- 3 保有する感覚の統合的な活用

【支援内容】

#### ① 姿勢と運動・動作の基本的技能の向上

姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化。

#### ② 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用

姿勢保持装置等様々な補助用具等の補助的手段を活用して支援する。

- ③ 身体の移動能力の向上  
歩行や歩行器、車いすによる移動等必要な移動能力の向上のための支援。
- ④ 保有する感覚の活用  
保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるようあそび等を通して支援する。
- ⑤ 感覚の補助及び代行手段の活用  
保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするように環境や補聴器等を活用できるよう支援する。
- ⑥ 感覚の特性(感覚過敏・感覚鈍麻)への対応  
感覚や認知の特性を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援。

### 3, 認知・行動

#### 【ねらい】

- 1 認知の発達と行動の習得
- 2 空間・時間、数等の概念形成の習得
- 3 対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

#### 【支援内容】

- ① 感覚や認知の活用  
視覚や聴覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能へ発達を促す支援。
- ② 知覚から行動への認知過程の発達  
環境から情報を取得し、必要なメッセージを選択して行動につなげる一連の認知過程の発達を支援。
- ③ 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成  
物や空間、時間等の概念の形成を図ることで、認知や行動の手掛かりとして活用できるように支援。
- ④ 数量、大小、色等の習得  
数量、形の大きさ、重さ、色の違い等の習得のための支援。
- ⑤ 認知の偏りへの対応  
個々の特性に配慮し、入ってくる情報を適切に処理できるように支援する。こだわりや変色に対する支援。
- ⑥ 行動障がいへの予防及び対応  
感覚や認知の偏り、コミュニケーションの難しさから生ずる行動障がいの予防と適切行動への対応の支援

### 4, 言語・コミュニケーション

#### 【ねらい】

- 1 言語の形成と活用
- 2 言語の受容及び表出
- 3 コミュニケーションの基礎的能力の向上
- 4 コミュニケーション手段の選択と活用

#### 【支援内容】

- ① 言語の形成と活用  
体系的な言語の習得、自発的な発声を促す支援(モノや体験と言葉の意味を結びつける等)。
- ② 受容言語と表出言語の支援  
言葉や文字を使って相手の意図を理解したり(受容)、自分の考えを伝える(表出)支援。
- ③ 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得

それぞれに配慮された場面での人との相互作用を通して、コミュニケーション能力向上のための支援。

④ 指さし、身振り、サイン等の活用

指さし、身振り、サイン等を用いて環境の理解と意思の伝達ができるように支援する。

⑤ 読み書き能力向上のための支援

発達障がい等の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援。

⑥ コミュニケーション機器の活用

絵カードや機器等のコミュニケーション手段を選択・活用し、環境の理解と意思伝達ができるように支援する。

⑦ 手話、点字、音声、文字等のコミュニケーション手段の活用

多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるように支援する。

## 5, 人間関係・社会性

### 【ねらい】

1 他者とのかかわり(人間関係)の形成

2 自己の理解と行動への調整

3 仲間づくりと集団への参加

### 【支援内容】

① アタッチメント(愛着行動)の形成

人間関係の意識と身近な人と親密な関係を基盤とした周囲の人との安定した関係を形成するための支援

② 模倣行動の支援

あそび等を通じて人の動きを模倣することで、社会性や対人関係の芽生えを支援する。

③ 感覚運動あそびから抽象あそびへの支援

感覚や運動機能のあそびから、見立てあそびやごっこあそび等の抽象あそびを通して徐々に社会性の発達を支援する。

④ ひとりあそびから共同あそびへの支援

ひとりあそび、平行あそび、連動的あそび、ルールを守ってあそぶ共同あそびを通して徐々に社会性の発達を支援する。

⑤ 自己の理解とコントロールのための支援

できること、できないこと等自分の行動の特性を理解し、気持ちや情動の調整ができるように支援する。

⑥ 集団への参加への支援

集団に参加するための手順やルールを理解し、あそびや集団活に参加できるように支援する。

### 《具体的な訓練》

#### ●TEACCHの構造化技法

物理的構造化：それぞれの活用内容とそれを実施する場所を一致させる。

時間の構造化：個別に時間の流れを文字や絵、写真等で掲示する。

手順の構造化：課題の種類、課題の実施時間、課題の終わり、課題終了後に何をするのかを示す。

課題の組織化：課題のやり方を視覚的手掛かりにより明瞭に掲示する。

#### ●絵カード交換式コミュニケーションシステム (PECS)

絵カードの手渡しをコミュニケーションに置き換えることから始めて、語彙拡大や要求伝達等の機能拡大を目的とし、コミュニケーションの仕方を知り、不特定場面で行えるように般化し、さらに要求や質問への受け答えへと広げる。

## ●認知行動療法

- ①認知再構築法：パターン化した自動的な思考に気づき、適応的な認知に変容する。
  - ②セルフモニタリング：自分の感情、行動等を自分自身で観察や把握する。
  - ③行動活性化：行動を変化させることで、否定的な認知を変容する。
- 最終的には自分で対応する手段を身に付ける。

## ●ソーシャルスキルトレーニング

- ①身に付けたい技能を選定。
- ②視覚・聴覚を利用してわかりやすい形で技能の手順を掲示。
- ③指導者が実際に手本をみせて理解を深める。
- ④実際に練習する場面を設定して成功体験を積み重ねる。
- ⑤練習内容についてよかった点を中心に改善点も含めて本人に伝える。
- ⑥日常生活場面で技能を使って般化する。

## ●感覚統合療法

前庭覚：適切な姿勢、バランス、運動維持、眼球運動調整。

固有覚：身体各部の位置や運動を知覚、筋緊張の調整、身体イメージ形成。

触覚：人やものとの距離を感じる、身体位置や部位を知覚。

視覚：人やものに視線を向ける眼球運動、視線を向けるときのピント調整機能。

## ●インリアルアプローチ

ミラリング：こどもの行動をそのまままねる。

モニタリング：こどもの音声や言葉をそのまままねる。

パラレルトーク：こどもの行動や気持ちを言語化する。

セルフトーク：指導者（おとな）自身の行動や気持ちを言語化する。

リフレクティング：こどもの言い誤りを正しく言い直して聞かせる。

エキスパンション：こどもの言葉を意味的、文法的に広げて返す。

モデリング：こどもに行動や新しい言葉のモデルを示す。

## ●ムーブメント療法

楽しい軽運動（動き）を通して、からだ・あたま・こころの包括的な発達を援助する。自主性自発性を引き出すために音楽や場所を活用する。

## ●音楽療法

心身の発達促進だけでなく、コミュニケーションとしての利用、情緒の安定や問題行動の減少に繋げる。方法として、楽器演奏や身体動作を伴った表現活動等の能動的なもの、音楽を聴くことでリラックスや瞑想状態をつくる受動的なものを組み合わせる。

## 【ねらい】

・ことばに親しみ、語彙力をつけるために、言語タスクをなぞなぞやゲーム感覚で楽しむ。

ねらい → ことばに親しみ語彙を増やす。

・言語タスクでは、二語文三語文と問題が少しずつ複雑な構造になる仕組みで、自然と文の構造が理解できるように配慮して設計する。

ねらい → 文を理解する力をつける。

・文字と音声セットになって出題されるなぞなぞ。聴覚認知の困難なお子様たちの聞き取りトレーニングにも活用する。

ねらい → ことばを聞き取る力を育む。

・必要な情報を記憶するワーキングメモリを鍛えるトレーニングをゲーム感覚で行う。

ねらい → 遂行機能を強化する。

・周囲の状況に注意を払い、冷静に判断し、目の前の課題に正確に取り組むトレーニング。

ねらい → 集中力を高める。

・達成したことに合わせて、お子様たちをしっかりとほめることで、自己への信頼を作り、やる気を高める。

ねらい → ほめて自信をつける。

#### 【効果】

一人ひとりの認知機能が異なるため、同じ指導、訓練をしても皆が同様の理解をするとは限らないこと、また身体機能も異なること、さらに障がいによる特性次第では、繰り返し指導、訓練を受けても身に付けづらい発達領域が存在すること等を踏まえて、上手くいかないことが続くミスマッチな療育を避けることで、食事動作や衣類の着脱、排泄行為等の日常生活動作は高い効果が期待でき、一人ひとりの特性や個性にマッチした療育をすることで、運動機能と動作、言語、コミュニケーション、社会性、対人関係等への効果が期待できる。

令和6年4月制定